





# 農藝品評會

## 兒童作品展

品評會と學校の兒童作品展は十一月廿二、三日頃開催の豫定期間も切迫に就き各種団体、一般村民男女青年會員各位には充分御留意下さい。

出品規定は左記の通り天候不順の際乍ら農家經濟の止に御努力して多數作品御出品を願ひ、此の催を意義あらしめ度いと思ひます。

### 品評會出品規定

一、竜丘青年會主催はてのう盤に關する生産品其の他陳列して村民の從隨に就き村の産業經濟の改良進歩を圖るを以つて目的とする。

二、出品種目並其の數量

- 穀物類 一種に付 五合
  - 蔬菜類 同 升ものは五合數ものは三ケ以上
  - 果實類 同 升ものは五合數ものは三ケ以上
  - 織物類 同 一ケ一対
  - 木工物品 同 一ケ一対
  - 草蓆類 同 一ケ一対
  - 其の他のう盤に關する加工品、副業品廢物利用等
- 三、區域は竜丘村一圓として出品者の生産したるもの(但し参考品は此の限りにあらず)。
- 四、出品物は本會に於て相當の保護をなすも審査のため亦は不可抗力の災害によりて紛失毀損したるも其の責は本會に於て負はず。
- 五、出品物搬入は出品者の負たぬ(但し青年會員に於て出來得る限の取扱をなす)。
- 六、出品物の販賣希望は取扱ふ但し賣れざる時は返却す。
- 七、審査員は郡農會より派遣を乞ひ外に農會役員其の他適任者に願ふ豫定なり、之れは本會に一任の事。
- 八、審査決定に對して異議申立は受付けず。
- 九、出品物は開期中場外に搬出することを不得す。
- 十、出品物(参考品を除く)優良なるもの一、二、三等に別けて褒賞を授與す。

## 全村八百の主婦

### 小麥の混合飯を食べて

#### 農村更生への精進

竜丘村農會産業三組合婦人會の道を東から西から北から南聯合主催の全村婦人會は中秋から三定刻までに集つた會員八百餘名、一同宮城を遙拜し十月十六日午前九時から時又國歌を二唱し次で生糸組合専劇場にて開演された、秋晴の野

勢今村禮治氏開會の挨拶を述べられ一同再び起立産業組合歌を合唱し、直ちに講演に移り天龍社田口技師は蠶糸業の現状と其の對策につき氏獨特の快辯を以つて蠶糸業の現在と其の將來につき婦人の覺醒を促すこと二時間、次に産業組合下伊那郡會長北原阿智之助氏は滿場拍手の裡に益壽壽常時に對する産業組合婦人の覺悟と題し權利義務の關係及び現代人の最も欠缺たる報恩、感謝、懺悔、反省の四大生活につき諄々説き多大の感銘を與へて降壇した時に午前十一時半九百人分の小麥混合の握飯は三組合及婦人會役員の手によつて全員一齊に配られ全村八百の主婦が一室に相會し中食を共にしつ、農村不況打開を語り合ふ光景は實に涙ぐましいものであつた午後一時引續き郡農會高坂技師の小麥の營養價に關する有益なる講演があり午後二時から餘興活動寫眞魔獸タイガ―お母さんの映畫を觀覽し午後五時木下紫水氏の閉會の辭を以つて盛會裡に終了した。

## 農村の悲惨を軍營で聞き 中島君の美舉

所澤陸軍飛行學校學生中島伍長が村の困窮を痛感し便りに金貨を添えて村内にも困りの方もありませう、一部に役立てば幸甚であること送つてよこされた。村民一般は此の美しい話に感激してゐる便りを左に掲げる。

初秋の候村民皆様に御變りありませんか御伺申上ます。秋蠶で御骨折りの事ご思ひます。幸中島事も相變らずの元氣にて働いて居ります。思出せば三年前皆様に送られて出發致して以來横着許り致して申譯ありません。皆様に何時も御手厚い慰問品に亦慰問文に御奮勵下され私として何一つ國の爲にもならず平々凡々として生活して居るに皆様に夏に冬に働きの忙しい時にも御指導下され無事今日迄軍隊生活を送る事が出来たのも皆様の御陰に厚く感謝致します。就きまして新聞に依りますに米價の安いのは驚きます。村内にも御困りの方も

ありませう。甚だ失禮ではあります。同封の微金を以て幾分なり共役立てばご思ひ送ります。故御使ひ下さい。今所澤陸軍飛行學校第五十一期生として一生懸命働いて居ります。皆様の長い間の御指導を得て今日あるのです。力の續く限り練習致す心算です。そして皆様の御指導に少しも報ゆることができればご思ひ一大馬力を掛けて居ります。 終り 九月二十三日 中島 伍長

通り決定す

甲種	二四番中平	省二
歩兵	六五岩堀	俊道
同	七三吉川	正司
同	九七大野	敏夫
同	一一五林	長雄
同	一三九原	次郎
同	二〇中島	照雄
同	三九原	善一
野砲兵	二〇中島	照雄
同	三九原	善一
野戰重砲	二四伊原	秀夫
同	二六市瀬	正美
工兵	法三三條第	大前 鎮美
同	四項該當者	今村 康郎
輕重兵	九	寺澤 芳隆
同	法四九條	寺澤 芳隆
同	該當者	寺澤 芳隆
乙種第一種	五	下田 富
歩兵	九	折金 謙三
同	二二河井	清榮
同	三七井口	清司
同	二波邊	五郎
同	二四林	英雄
同	三六前澤	四郎
同	六一坂井	長次郎
同	七〇折金	米男
同	七九代田	八千雄
同	九七下田	孝三
同	一一二中平	正治
同	一七伊坪	正治
同	一八中島	尹人
同	五二久保田	文夫

吾が兩角校長 奏任待遇に就せらるる 吾が高等小學校校長兩角校長は幾多小學校教育功勞顯著なるを以て文部當局より奏任官待遇を以て就せられた。先に下平芳太郎先生が奏任待遇で再び兩角校長に就いた事は村民の衷心より喜ぶにたない次第である。

天龍橋架橋 準備始まる 早くからの懸案だつた天龍橋かけ橋はこの地先も進歩も進んでいよいよ工事に着手する迄の運びなつた。

消防の秋季演習 竜丘消防組第一部では二十一日第二部では二十二日それぞれ部ごの秋季不時呼集をなした。なほ二十四日は組中で創立二十五週年記念及び無火災表彰を兼ねて駄科鈴岡公園で大々的に秋季演習を行つた。

現農村の實情に 適合せる藥局設置 佐々木氏の快舉 桐林佐々木氏は現農村不況の疲弊困憊の極に喘ぐ農村實情に幾多感ずる所ありて藥局を設置した。目下醫藥問題は重大なる社會問題として現世のひこしく聲を大にして叫ばれて來た問題であつた。此の秋にあたり佐々木氏の快舉は吾村民の喜びである處方調劑賣藥等何れも作つて下さる御利用あらん事をお奨め致します。 因に氏は現千葉醫科大學の頭

竜丘消防組廿五週年 祝賀會開催 本村消防組は令旨傳達式並に秋季演習を兼ね創立二十五週年記念及無火災表彰祝賀會式を盛大に鈴岡公園に開催した。來賓に加々美警察署長、畑部長、伊賀良、鼎、松尾、下久堅、龍江、川路、三穂各組頭村會議員、前組頭、前部長等參列の榮を受け二十五週年祝賀の感激をつくした。

桐林漆栽培組合 山梨縣より視察來訪 漆栽培組合も生れて此處數年現在採集加能樹四百本餘を有し、内容完備したる故を以つて廣く全国的に知られ、今回亦々山梨縣林務課より技手森井八郎氏が二十三日來訪、種苗圃より帳簿に至る迄細密なる調査を行ひ、賞揚し、た

妊婦無料診断 次回は 十一月十日 十二月八日

吉田屋 冬へのお仕度は 吉田屋で 新型 新柄の各種 シヤツ ズボン類豊富 洋服 學生服 ワイシャツ メリヤス類 足袋 各種大特賣 兎に角品物を見に御遊びにお出掛け下さい

徴兵検査 抽籤結果 本年度徴兵検査抽籤結果左之

和洋御菓子 安い若木屋の菓子で みんな甘くなりませう 時又 若木屋菓子店 電話 二九番

安東ブリキ店 需要者に徳な バケツ製造販賣 雨樋乃修繕に絶好の季節です 格安で御相談に應じます

安東ブリキ店 需要者に徳な バケツ製造販賣 雨樋乃修繕に絶好の季節です 格安で御相談に應じます

農家視察記

下平不二夫

(二)

労働能率にしても増進を計らねばなりませんが、桑原氏は夫婦二人にて五反歩の麥播を四日で終つた云ふ話を聞き、

其の他色々お聞きしたい問題がありましたが長時間お邪魔した、めすまゝに気がして農場を見せたいと云ふので、狭い宅地が良く利用されてゐる點に感心しました、この宅地利用も農家では大切な問題だと思ひます。

桑原家の例を二二あげます。畑の端に茶の木や草花が作られ川の上に葡萄を蒔かせてある等空所が少しも見つからない程よく利用されておりました、水田葡萄園などを案内していただきながら平和なる村隣保相助の村である話や麥作稲作の話も聞きました。

見學も終り長時間我々の爲に親切に教導して下さいました厚意を深く謝して桑原家を辭した時は十一時半でした。

三、岐阜縣キ斐郡養基村 野原小三郎氏(男) (七月三十日午後一時訪問) 中之元停留場より刺車終點キ斐驛下車約西南一里

- 田一町歩 (二毛作) 裏作 紫雲英 麥 如三反歩 桑園 二反歩 柿園 六畝歩 葡萄園 一畝歩 蔬菜園 三畝歩 養蠶 三〇瓦 夏秋蠶七五瓦 馬一頭 鶏三〇〇羽 農産加工

収入 六三圓五〇錢(共同) 自家用 一〇〇〇個 葡萄 五圓五〇錢 收入 二圓 收入 七圓 收入 四圓 收入 五〇錢 收入 五圓 一本 收入 五圓 二十錢 切花球根 收入 十五圓五十錢 合計收入 一七八圓二二錢 支出 六二七圓七五錢 差引 一六〇圓四三錢

野原家は岐阜縣下に於ける集約經營者として優良なる農家であり、以上大體の經營によつてわが村より一歩先を行つてゐる點に驚きました。

野原家を訪問した時は焼酎の時期で、丁度晝休みの時期で、面會の出来た事は大變都合でした。

漫談

漫談家

長足院

貴重なる紙面を一寸拝借して漫談をさして貰ふです。

さて前號に人絹糸の話、養蠶農家の慘状等があつたので、一体全体高い高い全世界が一目で見ゆる高山から下界を見たら今や人絹の世の中になつたのではないかと思ふです。

即ち近頃の人々は流行物へ目をつけて居るのです。織屋は織屋で人絹糸を利用し一方需要者は此の不況金缺病にかかり一錢でも高價な品は買はんです、流行物はほしいです、それや云つて本糸を自家用にも國用にも使ひ切れんです。

を小さなノートを見ながら説明して下さいました、次に身の上話を聞かしてくれました、彼の父は酒が好きで身持が悪く一町歩あつた田畑を人に渡し三反歩の小作を残して四十八才で死なれたそうです。

二十才の時他人より一歩先を行つてゐる點に驚きました。野原家を訪問した時は焼酎の時期で、丁度晝休みの時期で、面會の出来た事は大變都合でした。

吾等の爲に利益を得るんぢやないかと言ふです、一方も口には出さぬが資本を出すから仕事が出るんぢやないかと言ふです、相互に争ひが出る一方は小人數だから逃るんです、逃る先は機械工業へ行くんです、するも又々取付けて争議を作るんです、争議を作れば作る程一方は逃るんです、逃げた學句は最初百人使用してゐたものが機械工業に逃げたが爲に三十人位な人にて足るんです。

「國の爲なら村の爲出して頂戴税金を」

自分の事は自分でせよと尋常一年生の時教へられたです。教育だつてそうです、長男坊に迄家のおやちの達者な内は皆外でやれ、然る後おやちが老耗した時家へ歸りやア、ちやないかなど中等教育者が青年へ教へたです。

月給生活者ならそれもよいです、實業云ふものはそんなものではないです、家業は成立せんで、處で本問題は全世界が一度に此の不況時代に入つたは變です、アメリカ邊りで金銀を山程積んで居ても不況は如何に言ひたいです。

を與へるに足るんです、實際には無いです、する以前百人分の給金が六十人分足るんです、差引四十人分が出るんです、此の四十人分は幾年かの後に現金として残るんです、其の残分は蓄積して國家有時の際に云ふ事です、處で以前百人が百人給金を貰つて一寸一杯出かけた者が今やあ卅人で機械が動くから卅人が給金を貰つて一寸一杯に行くんです、此卅人に相手をする女給さんも卅人で足るんです、です此の卅人の女給さんが線糸を使用してくれんです、そこへ以前の百人分の線糸を送つても需要者は無んです。

だか考へるんです。考へて見たり見る程農家はさうしても食糧だけは自分で作る事が本分だと思ふんです、昭和五年の米作豊年で石十五圓で悲聲を(米作地方のみ)出したです、吾等養蠶家にも一貫九十三圓で賣つた時代もあつたです、今や米穀統制法が布れてあるんです、尙年々歳々餘れば菓子にするんです、こゝに自給自足が始るんです、私は考へるんです。

熱化討伐の歌

橋もなきあくる四十里這ひつりて 意氣一すじにたどりつきたり 滿蒙の臺りを拂ふ爲なれば 我は今おろそかならぬ任を負ひ 赤き陽望む日を重ねをり 陣中の暇をたづねて只管に 戦場のならひになれし昨日今日 血兵いさむ嬉しく身にしむ 愛國の純き情けに泣けて 報恩の念また新こなり

中平茂

歌短

安い◇新しい◇甘い◇ 和洋御菓子 慶愁用引菓子 他菓子類一切 藤屋菓子店 電話一七番

冬物入荷 寒い時又 仕度は 吉川屋洋品店で

獨立開店御挨拶 碧青色の空! 錦色に輝く野! 山! 皆見る者秋の色になりました 丘の皆々様には益々御健勝の事存じ御喜び申上げます 小生過日貳拾日元佐々木靴店跡へ獨立開店致しました 小生獨立開店の出来得た事は佐々木木屋小間物店にミシン加工部營業中の皆様の心身の御引立に預つた事ご思考し深く感謝致します 尙此後も従来のモントー迅速丁寧且つ勉強に一層の拍車を加へ丘の皆様の田中胖物店にして營業に従事するつもりであります 舊に倍して御引立の程を御願ひするに同時に開店の御挨拶に變へておきます

時又 田中胖物店 季節物多量入荷致しました 學生服は大勉強にて提供致します 一度是非ヒヤカシにお出掛け下さい

讀書の好季節です 勉強の好時季です 書籍 諸雜誌 學用品 印鑑 新生堂文具店

紅葉 酒は喜久水 時又 伊原酒店 電話一七番